



SSU NEWS



静岡産業大学 <http://www.ssu.ac.jp>

■経営学部 磐田キャンパス／〒438-0043静岡県磐田市大原1572-1

■情報学部 藤枝キャンパス／〒426-8668静岡県藤枝市駿河台4-1-1

発行者／SSUニュース編集委員会 TEL054-647-0362 koho@ssu.ac.jp

地域社会と共に人材育成



藤枝市 蓮華寺池公園「冒険の丘」で行われた案内サインのお披露目式

静岡産業大学の最新ニュースはこちら
(大学公式ホームページ)



地域社会と連携した教育・研究活動について

本学では、自治体を中心に地域社会と連携し、地域を志向した教育・研究・社会貢献を進めています。平成26年春に締結された藤枝市・焼津市との連携協定をうけて、情報学部（藤枝キャンパス）で情報デザインやマーケティングを学ぶ学生が進めてきた両市とのプロジェクト内容をご覧ください。

藤枝市教育委員会プロジェクト ふじえだプレイパークの案内サイン制作活動

2月7日（土）、蓮華池寺公園内「冒険の丘」で、藤枝市教育委員会プロジェクトとして制作活動を進めてきた「ふじえだプレイパーク」ロゴマークのお披露目式を行いました。藤枝市と本学は昨年に包括連携協定を調印し、同公園内におけるスポーツ教室「キッズスクール」を開催し、同時期から当プロジェクトも進めていました。

藤枝市教育委員会から提示されたプロジェクト課題は、用意された道具や決められたルールによる遊び方ではなく、子どもたちが遊びを創り上げていくのだという趣旨が伝わる案内サインの提案でした。情報デザインを学ぶ学生と教員によるアイデア出しの結果、明るいオレンジ色を基調に、キャッチコピー「やってみたいをやってみよう」^(※1)と四葉マーク^(※2)が最終デザインとして仕上がり、このたびのお披露目式を迎えました。

お披露目式では、藤枝市山本教育長から、藤枝市制60周年記念「子ども☆みらい☆輝くまち」をテーマとして、藤枝市と本学で作上げたこのデザインを、今後継続して利用していきたいとご挨拶をいただきました。のぼり旗や三角コーンは、蓮華池寺公園内「冒険の丘」を登る途中の各所に配置されています。蓮華池寺公園にお越しの際は、是非ご覧ください。



(※1) 子どもたちが安心して自分たちの発想と方法で遊びを作り出すことを呼びかけています。

(※2) 子どもたちがプレイパークで失敗しながらも学び、成長して大人になる様と、三つ葉が傷つき、四葉になる様を重ね合わせています。

焼津市シティプロモーション シティカラー・ロゴマーク等の制作活動

1月16日（金）、焼津市役所において、焼津市シティカラー・ロゴマーク・キャッチコピー策定のプレゼンテーションが行われました。焼津市と本学は2014年6月に官学連携協定を調印し、情報デザインを学ぶ学生が焼津市の都市イメージをより効果的に情報発信するため、約半年間の制作活動を進めてきました。

当日は、中野弘道焼津市長をはじめ、焼津副市長、焼津市まちづくり政策課の職員約30名が会議室に集まり、中野市長からご挨拶をいただき、続いて情報学部 情報デザイン研究センター長佐野典秀教授の事業概要説明が行われました。

プレゼンテーションは制作活動を進めてきた学生により進行され、シティカラー（4種類）、ロゴマーク（6種類）、キャッチコピー（6種類）の順番で発表されました。市役所の方々に前に学生たちは緊張していた様子でしたが、司会進行をスムーズに務め、続く質疑応答にも、専門知識をもとに自分たちの考えを述べていました。今後とも、当推進事業における学生の活躍にご期待ください。



藤枝市人口増加若者プロジェクト 藤枝市の人口増加に向けた広報活動

2月20日(金)、藤枝市役所において、藤枝市「人口増加若者プロジェクト」に参加した学生によるプレゼンテーションが行われました。このプロジェクトは、藤枝市と包括連携協定を結ぶ大学に対して募集があった課題であり、本学情報学部金ゼミナールの学生8名が、マーケティングと情報デザインを活かして課題解決に取り組みました。

プレゼンテーションの題目は「藤枝市の人口増加に向けた広報活動」で、発表に向けて学生たちは練習を重ねていました。北村正平藤枝市長をはじめとする市役所関係者の皆さまの前で発表したことで、学生たちにとって、大変有意義な機会になりました。

金ゼミナールは大学生や他県他市から藤枝市に移住してきた若い母親にアンケート及びグループインタビューを実施し、交通の便の利便性や、医療施設の充実性について調査してきました。調査で得られた情報をもとに、藤枝市の人口が増えている理由をまとめたポスターを制作し、北村市長はじめ参加者に披露しました。

学生のプレゼンテーションに対し、北村市長より、「藤枝市の人口が伸びている理由のひとつは、教育日本一を掲げているからであり、

調査の際に教育内容のインタビューもあったと良かった。」というご講評とともに、今後のシティプロモーションで提案されたデザインを是非利用していきたいとの感謝の言葉をいただきました。

藤枝市との包括連携協定を結び、藤枝キャンパスの学生と教員が一体となって、地域社会の課題解決に取り組んでいます。地域連携活動を通じた本学の教育・研究活動に今後もご期待ください。



地域連携型アクティブ・ラーニングの探求

本学の教育の特徴は、学生の学習をより発展させるため、地域の企業・行政・学校・市民と連携したアクティブ・ラーニングに数多く取り組んでいることにあります。アクティブ・ラーニングは、学習者が単に授業を聞くというような受け身の学習ではなく、自ら体験や調査を行い、能動的に学ぶ学習法の総称です。両学部で実践している様々な事例をご紹介します。

………… いわた産業振興フェアでの研究紹介 ……………



11月12日(水)、磐田市 アミューズ豊田でいわた産業振興フェアが開催され、経営学部熊王ゼミナールの3年生が、自らの取り組む研究について発表しました。

当ゼミナールでは、地場産業における感性と経営の関係をテーマとした農産物、織物、切り花などのプロジェクト研究に取り組んでいます。7月に開催された浜松ビジネスマッチングフェアに続く2回目の発表となり、学生は訪れた企業・一般の方に、研究内容を丁寧に紹介していました。

………… 第13回 いわしんビジネスコンテストで特別賞受賞 ……………

11月18日(火)、磐田グランドホテルにて、いわしん・がんばる起業応援ネットワーク主催 第13回ビジネスコンテストの最終選考会が開催され、応募総数118件(うち学生部門33件)を勝ち抜いた8件のプレゼンテーションが行われました。

学生部門において特別賞を受賞したビジネスプランは、情報学部の杉田快渡さんを代表とする柯ゼミナール生6名による「二種飲料ドリンクボトル～nico～」で、同部門の準グランプリに相当する「特別賞」と副賞5万円を獲得しました。

これは「TPOに応じて違う飲み物が欲しい」「水筒は重くてイヤだ」といった現代人の悩みに応え、中央にタテに仕切りの入ったペットボトルとキャップを開発し、マイボトルとして使ってもらおうという商品で、消費者のエコ意識に訴求するアイデアと、丁寧なマーケティングが高く評価されました。

このほか本学からは両学部あわせて8件の応募があり、審査委員からは「学生部門は年々レベルが上がっており楽しみだ」とのご講評もいただきました。



………… 3年連続の快挙 藤枝市「市政政策提案」優良賞受賞 ……………



12月20日(土)、藤枝市市民協働フォーラムの中で、藤枝市「市政政策提案」表彰式が行われ、情報学部4名の学生が優良賞を受賞し、一昨年と昨年に続き、3年連続受賞の快挙を成し遂げました。この改善提案制度は、藤枝市が地域の宝を生かした市政推進のため、「共に拓こう“元気ふじえだの扉 2014”」をテーマに募集されていたものです。

表彰式では、北村藤枝市長から賞状と賞品が手渡され、学生から御礼の言葉を述べました。受賞者は下記4名です。

★優良賞「高齢者と子どもの合同交通安全教室の開催」

萩原佑樹さん、田邊健人さん

★優良賞「自宅や商店街での起業支援」

リアン・アディウィジャヤさん、岩本明大さん

…… 藤枝市連携事業のキッズスクール(全6回)が無事終了 ……

2014年6月から始まった藤枝市制60周年記念事業「キッズスクール」(全6回開催。開催場所:蓮華寺池ホール)が、12月20日(土)に最終回を迎えました。最終回では、経営学部山田専任講師による「ボール遊び」が行われ、様々な種類のボールを使ったスポーツ保育プログラムを実践しました。

全6回の内容のテーマは、トランポリン、体操、ボール遊び、ダンス等で、両学部運動部の学生やスポーツ経営学科の教員が担当し、参加いただいた親子の皆さんに、スポーツを楽しんでもらえました。



…………… 学生が作る結婚・恋愛のプログラム ……………



「結婚・恋愛のプログラム(M&L PROJECT)」が、1月31日(土)に磐田駅前学舎で開催されました。このプログラムは、12月に開催した静岡県少子化対策事業を発展させたもので、経営学部 心理経営学科の学生が独自に企画・運営を行い、一般の方々にも参加いただきました。

プログラムは外部講師による講演とグループワークの2部構成で、学生が司会・ファシリテーターとして進行を務めました。グループワークでは「気になる人への声のかけ方」など4つのテーマについて付箋を使って話し合い、異性の立場や考え方のヒントを得られたとの感想が聞かれました。

この取り組みは2月21日(土)放送のSBSラジオ「テキトーナイト」で取り上げられました。

…………… 東京インターナショナル・ギフト・ショーに参加 ……………

2月5日(木)、東京ビッグサイトで開催された「第79回東京インターナショナル・ギフト・ショー」に、経営学部熊王ゼミナールの都田響子さんが、袋井商工会議所の広報応援として参加しました。

袋井商工会議所で進められているクラウンメロンの健康飲料水をアピールするために、ブースの中で来場者に試飲してもらい、ゼミナールで得たアンケート調査の方法を活かして質問紙調査で回答してもらうとともに、商品の特徴を説明しました。



… 学生の主体的な学習を目指してラーニングメソッド研究会 …



1月28日(水)、磐田キャンパスに両学部の専任教員が一同に会し、第14回ラーニングメソッド研究会を開催しました。

テーマを「地域連携型アクティブ・ラーニングの探求」とし、地元トマト農園のパッケージデザイン、古民家や百年番茶の活用策、地域の食材や名産を活かしたお弁当の企画販売、ジュビロ磐田の試合会場でのイベント企画運営など、4つの事例が発表されました。

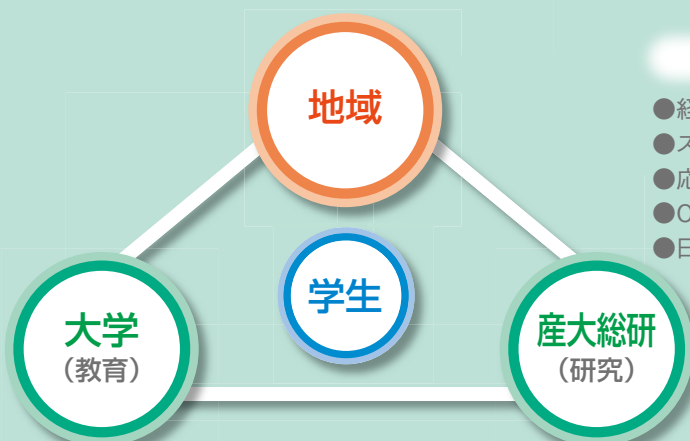
出席した教員からは、アクティブ・ラーニングをより効果的にする工夫や、他の授業へのフィードバックについてなど、多くの質問、意見が出され、活発な議論が行われました。

地域コミュニティの中核的存在を目指して

本学では地域の課題解決に資する人材や情報・技術が集まる大学を目指し、大学と静岡産業大学総合研究所（産大総研）が一体となり、地域・一般の方を対象に講座・イベントを開催しています。学内の研究機関が主催する各種講座・イベントについてご紹介します。

ビジネス心理学講座

ビジネスの現場で実践できる心理学ノウハウの中から、本当に使えるものだけを厳選してお伝えする講座です。主な対象者をビジネスパーソン（若手から経営者まで）としていますが、心理学に興味のある方ならどなたでも楽しめます。このほか、「ビジネスコーチ養成講座」も開講しています。



関連研究機関

- 経営研究所
- スポーツ教育研究所
- 応用心理学研究センター
- O-CHA学研究センター
- 日本語リテラシー研究センター
- 情報デザイン研究センター
- アジアビジネス研究センター
- 地域学研究センター
- マーケティングセンター

地域目線による地域の持続的な
繁栄が本学のミッションの一つです。



パソコン講座

一般の方を対象としたパソコンのスキルアップ講座です。平成26年度はWord・Excel 応用Ⅰ・Excel 応用Ⅱ・スマホ乗換コースの4コースを実施しました。



初級iPad講座

一般の方を対象にiPadの電源を入れるところから始め、様々なアプリを紹介しながら活用方法を紹介します。平成27年度は中級編の実施を検討中です。



SSUビジネス アカデミー勉強会

企業関係者を中心に開催する、地域の中小企業が新たな経営行動に取り組むための糸口を探ることを目的とした勉強会です。平成26年度は磐田市議会委員の方も参加されました。

各種講座・イベントの最新情報、開催情報については、
大学公式サイト「講座・イベント情報」をご覧ください。

大学公式サイト <http://www.ssu.ac.jp>

静岡産業大学

検索



磐田市異業種交流会

磐田市職員や企業の方を対象とした交流会です。平成26年度は磐田の発展と魅力発掘をテーマに活発な討論が行われました。



俳句コンテスト

日本語リテラシー研究センターによる、高校生以上の学生と一般の方を対象とした俳句コンテストです。平成26年度は804名の応募があり、俳句の総数は2,430句にのぼりました。

O-CHA学術研究センターシンポジウム

一般の方や茶業界の方を対象に、お茶の販売戦略・茶道の本質など、お茶に関連したテーマで開催するシンポジウムです。各回に著名人を招き、平成26年度は「コーヒーに学ぶ茶の世界販売戦略」「日本茶の未来に向けて～茶の都しずおかから発信～」のテーマで開催しました。



SSU『茶話会』

静岡県西部の企業経営者および経営管理者を対象とした勉強会です。各分野で先導的役割を担っている研究者を通じて、先端的成果を情報提供していくことを目的に開催しています。



ほっとかないで空き家

磐田、浜松地域で活発な活動を行っている女性達により立ち上がったプロジェクトで、磐田市の活性化を「空き家」から考えてみるワークショップです。



認定看護管理者教育事業

静岡県看護協会からの受託事業で、看護職の方を対象とした研修会です。平成26年度は論理的なレポートの書き方をテーマに開催されました。

海外研究 ～最先端のスポーツビジネス、コンテンツビジネスを学ぶ～

アメリカの巨大スポーツビジネスの舞台裏、最先端のコンテンツビジネスを学ぶため、毎年希望者による海外研修を両学部で実施しています。平成26年度は2月に研修が行われました。現地での主な活動記録とともに、研修内容を紹介します。

2015アメリカ・スポーツ研修

- ◆研修日程：2月10日(火)～16日(月)
- ◆研修場所：カリフォルニア州ロサンゼルス
- ◆参加学生：20名 ◆引率教職員：2名

2月11日(水)

●スタブハブセンター(LAギャラクシー本拠地)

サッカーコート8面、テニスコート40面、メインコート(テニス、サッカー)、ロッカールーム、VIPルーム、報道関係者席の見学。テレビ放映権が最も利益があり、スーパーボールの30秒CMで、約4億円と言われています。

●UFCジム

トレーニング研修

●スティブルズセンター

NBA観戦 クリッパーズ
vsロケッツ



2月12日(木)

●Velocity

フィジカルパフォーマンス(ウォーミングアップやコンディショニング)の研修。NFL現役プレイヤーが特別ゲストとして講演してくれました。



●LAギャラクシーサッカーセンター

サッカースクールだけでなくバスケットやバレーなど多種目のコーチやトレーナーが駐在。サッカー以外のスポーツも含め、パッケージでスクールを開催しています。

2月13日(金)

●UCLA見学

スポーツ博物館、図書館、UCLAショップ、寮、アリーナ、トレーニングジム、保育所などすべてが完備された大学。学内にサークル活動やボランティア活動の大きな看板が設置されており、自大学にプライドを持って活動している様子がうかがえました。アメリカの文化を作っているのは学生自らが強く感じました。



2015ハリウッド・クリエイター研修

- ◆研修日程：2月12日(木)～21日(土)
- ◆研修場所：カリフォルニア州ロサンゼルス
- ◆参加学生：10名 ◆引率教職員：2名

2月14日(土)

●ライトハウス(研修サポート会社)

創業者 込山氏の講話と雑誌表紙作りワークショップ。

2月15日(日)

●アメリカ最大規模 国立公園デスバレー

長野県と同程度の面積～歩いて果てのない大平原。世界には「自分の知っている世界」を超えた存在があることを感じ、表現する人間として貴重な経験となりました。

2月16日(月)

●アーティストセミナー

ハリウッドで活躍する日本人アーティストの西村氏・渡辺氏から、映画『ベイマックス』の制作裏話等を伺い、作品作りにおける貴重なアドバイスをいただきました。



2月17日(火)

●ワーナーブラザーズスタジオ

映画『ハリー・ポッター』シリーズの撮影に使った小道具や衣装、さまざまな撮影裏話が満載。現在撮影中の映画のセットも見学し、映像制作の秘訣を学びました。

2月18日(水)

●CG専門技術学校GNOMON(ノモン)

プロのクリエイターも通う専門技術学校。ロサンゼルスでCGを学ぶならここと言われるほど。



最新のCG制作技術を見学し、プロのCGクリエイターを前に学生が一人ずつ作品をプレゼンしました。

●映像制作スタジオ

House of Moves

モーションキャプチャシステムで有名なスタジオ。特別なスーツを着て身体の動きをキャプチャする体験をしました。



留学のスズメ

日韓関係と留学生活

情報学部 情報デザイン学科 4年 村瀬 智香さん

私は韓国の大眞大学校へ平成26年9月から半年間留学をしました。

韓国語はほとんどできない状態からのスタートだったため、最初の頃はとても大変でした。言葉はもちろん、生活スタイル、食事なども日本とは違うことばかりで慣れるまでには少し時間かかりましたが、いろんなことを経験するよい機会になりました。周囲の人たちにも恵まれ、とても充実した生活を送れました。

日本と韓国の関係はあまり良いとは言えない状態が続いています。でも、韓国で私が日本人だからと嫌がらせをされたことはありません。学校では日本学科の学生たちとも仲良くなり、学科行事に参加したり、勉強を教えてもらったり、週末にはいろんなところへ案内して



韓国留学

情報学部 国際情報学科 4年 本多 祐貴さん

韓国に留学しようと思った理由は、語学を学ぶことに関心があったからでした。大学1、2年生のとき、韓国語、中国語、英語の授業をとっていました。その中でも一番興味がかった韓国に留学しました。

当初は言葉が通じない、知り合いも友達もない状態で不安を感じながらのスタートでした。加えて、日本と韓国は仲良くないイメージがあり、「韓国での生活大丈夫だろうか?」という気持ちがありました。



大眞大学校に入学し、私がイメージしていたのとは違う韓国の学生達の姿がありました。留学したばかりで言葉も分からない私に対して、食事に、また週末には様々な観光地に連れて行ってくれ、日本人である私を差別することなく接してくれました。そのおかげで友達もたくさんでき、みんなと話しながら韓国語を覚えることができる環境にあったので、とても楽しみながら学ぶことができました。今では、すべて聞き

本学では、世界の様々な地域の大学と学術交流・提携を行っています。本学の海外学術交流協定校のひとつ：大眞大学校（韓国）に留学した2名の体験記をご覧ください。

もらいました。街で困ったときには見知らぬ人も助けてくれ、私が出会った人たちは皆、親切な人たちばかりでした。韓国に来てからニュースの内容をすぐに鵜呑みにするのではなく、自分自身で調べて確かめてみる必要があるということを感じると同時に、いつか日本と韓国の互いのイメージが良くなる日が来てほしいと思いました。



今回、留学期間を延長することにし、私は今年の3月からまた大眞大学校に留学します。延長を希望した理由はもっと言葉を話せるようになりたい、韓国の学生が日本についてどんな勉強をしているのか知りたいと思ったからです。これからの半年は、今まで以上に授業が難しくなりますが、少しでも多くの知識を身につけることができるように頑張っていこうと思います。



取れるようになり自信をもてるようになりました。

私の留学の目的は語学の勉強をすることでしたが、韓国に留学し、得たもの・感じたものは語学知識以上にたくさんありました。日本にいても自分を伸ばすことはできませんが、その国に行かなければ経験できないことがたくさんあり、実際に行って充実した生活を送れて、とても満足しています。この留学で培ったものを生かせるよう、努力していきたいと思っています。

卒業研究 ～ 4年間の集大成を披露～

12月から1月にかけて、両学部の卒業研究発表会が行われました。専門ゼミナールで得た知識をもとに、調査と工夫をこらして作り上げた論文・作品を教職員・一般の方の前で披露してくれました。

経営学部

卒業研究発表会2015

12月18日(木)、経営学部「卒業研究発表会」を開催し、4年生がこれまでゼミで続けてきた研究を学生・教職員の前で発表しました。今年も経営、経済、会計、スポーツ、心理、教育など、経営学部が擁する多彩な専門分野に関する発表が行われました。



発表者はこれまで進めてきた研究の背景や目的、手法、結論などを15分間にまとめ、スクリーンに映した図表や配付資料を用いながら、分かりやすく説明しました。その後、質疑応答の時間には質問を受け付け、それぞれの的確に回答しました。

フロアには多くの聴講者が集まり、ときにメモをとるなど熱心に発表を聞いていました。発表者は発表前、緊張感からみな硬い表情をしていましたが、発表を無事に終え、自分の研究内容が聴講者に伝わったことが分かると、その喜びと達成感から満面の笑みを見せていました。



情報学部

情報デザイン展2015

1月25日(日)から28日(水)の4日間にわたり、情報学部「情報デザイン展2015」が開催されました。会場にはゼミ生による多くの作品が展示され、制作に係わった学生が直接、自分たちの作品について説明をしました。情報デザイン展には毎年意欲的な作品が多数展示され、大学としても、このような発表の機会を増やしてゆきたいと考えています。



PICK UP! 「感覚の飛越」

情報デザイン学科 2015年3月卒 野口 勝央さん

「感覚の飛越」と題する3つの作品の前では、学外から見えた方々が足を止めて、ヘッドホンで曲を聴きながらこれらの作品に見入っていました。この作品は、クラシック音楽が持つ曲のイメージを、縦約120cm、横約85cmのポスターとして表現するというもので、クラシック音楽の分野で有名な3人の作曲家(ベートーベン、リスト、プロコフィエフ)のピアノ・ソナタについて、聴覚で捉えたイメージを、ポスターという形で視覚に訴えようとする試みです。聴覚メディアの代表である「音楽」を、視覚メディアの代表である「ポスター」として表現しようとするもので、今回の情報デザイン展のテーマ「つながる…見えない形が見えるとき」にぴったりの作品でした。



この作品は、情報デザイン学科川又ゼミナールの野口勝央さんが卒業研究で制作したものです。野口さんは高校時代から吹奏楽部でホルンを吹き、大学生になってからは掛川市民オーケストラの一員として活躍しました。同オーケストラの第11回定期演奏会の際に彼が制作したポスターは、「第4回 JAGDA 静岡グラバ賞」に見事、入選しました。グラバ賞とは、日本グラフィックデザイナー協会 静岡地区が主催する、広告・メディア業界に勤めるプロのデザイナーたちが作品を応募して競い合うコンペティションです。野口さんは大多数の応募件数の中から、ポスター部門で唯一学生の立場で入選するという快挙を成し遂げました。



平成26年度 卒業式・平成27年度 入学式

4年間学んだ学生400名が本学を卒業しました。新しい第一歩を踏み出した卒業生のご活躍とご多幸をお祈りするとともに、新たに本学の門をくぐる、新入生493名を迎えたことをご報告します。

平成26年度 卒業式

3月12日(木)、グランシップ静岡において卒業式が行われ、計400名の卒業生が多くの方々に祝福され、本学を巣立ちました。卒業式では学長賞をはじめ、4年間の研究・課外活動に励んだ学生への表彰が行われ、三枝学長から、本学での「友」「師」「後輩」、この4年間の様々な出会いと縁を大切に、それぞれの新しい第一歩を踏み出してほしいと激励の言葉を卒業生に贈りました。

また、本年度は地元産業界の著名人による卒業記念スピーチとして、静岡県経営者協会会長・静岡瓦斯株式会社代表取締役会長の岩崎清悟氏より、仕事の哲学や人生観についてお話いただき、社会に羽ばたく卒業生がより良い社会人生活を過ごせるよう、エールをおくっていただきました。

学問・スポーツと様々な活動に励み、逞しく立派に成長して大学卒業を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。社会に羽ばたくこれからの皆さんのご活躍とご多幸を、教職員一同お祈りします。



平成26年度卒業生の主な進路

■進学／横浜国立大学大学院、静岡大学大学院、岐阜大学大学院、立命館大学大学院ほか

■学校教員／静岡県特別支援学校、浜松市中学、清水国際高等学校、島田実業高等専修学校、学校法人誠恵学院ほか

■公務員／静岡県庁、独立行政法人国立印刷局、浜松市消防、静岡県警察、滋賀県警察

■会社員・団体職員／サンライズ、朝日メディアブレン、浜松ケーブルテレビ、味の素ベーカリー、伊藤園、遠鉄ストア、静鉄ストア、百年住宅、静岡新聞総合印刷、静岡産業社、ジェイ・プラッカ、東京アスレティッククラブ、図南サッカークラブ、静岡カントリーグループ、静岡中島屋ホテルチェーン、静岡ガスシステムソリューション、ジェイエイしみずサービス、鈴与カーゴサービス、鈴与セキュリティサービス、日本生命保険、掛川信用金庫、静岡トヨタ自動車、ブリヂストンタイヤジャパン、ニチイ学館、遠鉄自動車学校、静岡県中小企業団体中央会、藤枝商工会議所、静岡県学校給食会、日本郵便、ハイナン農業協同組合、遠州夢咲農業協同組合、掛川市農業協同組合、とびあ農業協同組合、五和保育園、しずおか健康長寿財団、磐田市体育協会ほか

平成27年度 入学式

4月1日(水)、平成27年度入学式をグランシップ静岡で行い、経営学部323名(1年次生319名、編入生4名)、情報学部170名(1年次生165名、編入生5名)の計493名の新入学生を迎えました。

式典では浜松市出身のソプラノ歌手西尾舞衣子さんによる国歌斉唱、両学部在学生による司会、経営学部体操部によるキャンパスソング合唱、情報学部アカペラ部や経営学部チアダンス部によるパフォーマンスを披露し、新入生を歓迎しました。また、新入生代表の鈴木愛梨さんから、今後の大学生活への期待と目標を込めた代表スピーチが行われました。

新入生にとって、本学の学生生活が充実して実り豊かなものになるよう、教職員一同、教育活動と支援活動に励みます。





SSU SPORTS TOPICS

本学にはスポーツ活動に励み、輝かしい成果を挙げている学生が多数在籍しています。両学部運動部の活躍と、大学としてのスポーツ推進活動について、ピックアップ情報をお届けします。

※各クラブの活動報告は、本学ホームページのトップ「クラブ・サークル情報」をご覧ください。

情報学部

男子バレーボール部

～4年生 牛島健吾さんが大学男子強化合宿に選出～



12月に味の素ナショナルトレーニングセンターで行われた日本バレーボール協会主催「大学男子強化合宿」に、情報学部男子バレーボール部の牛島健吾さんが選出され、静岡県内の大学から初の選出となる快挙を成し遂げました。

この合宿では、リオデジャネイロや東京オリンピックで活躍が期待される若い世代の強化を目的に、全国の大学から選抜された26名の選手が合同強化合宿を行いました。

最終選考に残ると、平成27年度ユニバーシアードを始め、2月のキューバ遠征など、日本を代表して国際大会へ参加することになります。皆さまの応援を宜しくお願いします。

経営学部

女子バレーボール部

～全日本インカレで創部初のベスト16～

大学女子バレーボールの最高峰の大会である全日本インカレが12月、東京武道館を中心に開催されました。この大会はオープン参加で全国116校が参加し、熱戦が繰り広げられます。本学女子バレーボール部は東海リーグの戦いが評価され予選免除になりました。

決勝トーナメント初戦では、北信越1部3位の富山大学と対戦し僅差で競り勝つと、続く2回戦でも九州1部5位の九州共立大学に勝利することができました。ベスト8を掛け、西日本インカレ優勝校で本大会第1シードの福岡大学と対戦し、惜しくもセットカウント0対3で敗退しましたが、本学創部初のベスト16という好成績を残しました。

本学女子バレーボール部は学内の評判は基より学外評価も高く、部員が率先して通学路の清掃を行ったりしており昨年は学長から特別に表彰もして頂きました。また近隣の高校生を100人ほど受け入れる合宿を、学生が中心に計画を立て行っております。



東京五輪

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて



この度、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と本学との間で、連携協定を締結しました。

この協定は、2014年10月1日現在において、全国761校が締結しており、2020年に開催される競技大会の成功に向け、大学と組織委員会がそれぞれの資源を活用し、オリンピック教育の推進等、大会に向けた取組を進めるため、相互に連携・協力体制を構築することを目的としております。

今後、本協定に基づいた連携活動を通じて、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に貢献してまいります。